

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【公民／政治経済】

1. 対象 3年

2. 単元名

第2章 現代社会の諸課題 3 国家と主権領土、 4 安全保障と防衛（全3時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・自衛隊が組織されるまでの経緯を理解することができる。 ・政府と司法の自衛隊の合憲性についての解釈をまとめることができる。 ・防衛力を拡大すべきか否かを、複数の根拠を基に記述することができる。
思考力、判断力、表現力等	・安全保障を実現させるための方策を列举し、意見を出し合いながらマトリクス表に配置することができる。 ・安全保障を実現させるために必要な防衛力のあり方について文章で記述することができる。
学びに向かう力、人間性等	・複数資料を基に、協働してワークプリントを完成させることができる。 ・平和主義に関する自身の意見を記述することができる。

4. 本時の目標

- ・安全保障を実現させるための方策を列举し、その一つひとつの可否を複数の視点を対話によって組み合わせながら吟味することができる。
- ・安全保障を実現させるための防衛力のあり方について考察し、自身の意見を基に文章で記述することができる。

5. 授業展開【 本時 】

解決したい課題や問い

日本の安全保障を実現するために防衛力を強化すべきだろうか？
複数の立場や視点に関連させながら意見を記述せよ。

考えるための材料

- ・自衛隊の合憲性について（歴代首相の憲法解釈、歴代の判例）（スライド資料）
- ・日米安全保障、自衛隊の活動について（スライド資料）
- ・これまでの学習プリント（「政府の立場」「司法の立場」「国民の立場」のグループに分かれ、それぞれで意見をまとめたプリント）
- ・「防衛力の拡大・縮小」「日米協力・自立」の2軸マトリクス表

想定される活動

- ・資料をもとにワークプリントの空欄（政府と司法の解釈）を協働で埋める。
- ・日本がアメリカと協力して安全保障体制を維持していることをワークプリントに記述する。
- ・安全保障を実現させるための方策を列举し、意見を出し合いながらマトリクス表に配置する。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・日本周辺での危機的状況に対応するため、防衛力を強化すべきという意見を伝える。
- ・日米安全保障における日本の役割に基づき、日本が自立するために防衛力を強化すべきだという意見を伝える。
- ・憲法9条では戦力の不保持を明記しており、防衛力を持つべきではないという意見を伝える。
- ・共通の安全保障という考えに基づき、軍縮を進めるべきだという意見を伝える。
- ・反撃能力を有す等の防衛力の強化は、共通の安全保障の考え方に反するし、その財源を増税に求めるのであれば反対であるという意見を伝える。
- ・増税を伴う防衛力拡大のニュースを基に、日本の自衛隊が最低限度の実力を超えているのではないのか？自衛隊は違憲ではないのか？
- ・司法は自衛隊の合憲性については統治行為論を基に判断を保留しており、歴代政府の憲法解釈に基づけば、自衛隊は合憲ではないのか？

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・日本周辺での危機的状況に対応するため、防衛力を強化すべきである。
- ・反撃能力を有す等の防衛力の強化は、共通の安全保障の考え方に反するし、その財源を増税に求めるのであれば反対である。
- ・アメリカが矛、日本が盾という役割分担を維持するためにも、日米の外交的協力は維持していくべきだ。